

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2019年3月21日 (木)

NO. 945号

本号3頁

**辺野古新基地建設は断念を！ 政府は沖縄の民意に従え！
 安倍9条改憲 NO！ 憲法審査会を始動させるな！**

3.19 国会議員会館前行動

衆議院第2議員会館前を中心に、42回目の「19日行動」として「3.19 国会議員会館前行動」が行われました。「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」と「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」の共催。参加者は3000人でした。

主催者あいさつした福山真劫総がかり行動実行委員会共同代表は、沖縄県名護市辺野古への米軍基地建設は、「全国の人がたたかえば、阻止は可能です」と強調し、「市民と野党が共闘すれば、参院選も必ず勝つことができます」と述べ、安倍政権を退陣に追い込もうと訴えました。



次に、駆けつけた国民民主党、日本共産党、自由党、社民党、立憲民主党、沖縄の風の議員がスピーチしました。日本共産党の藤野保史衆院議員は、安倍首相の「憲法を変えて空気を変える」と発言したことを紹介し、極めて恐ろしい発言であり、このような安倍首相の改憲を許してはならないと、改憲阻止に向けて奮闘し合うことを呼びかけました。

その後、この日政府要請に訪れていた「オール沖縄」の代表団が参加し、共同代表の高里鈴代さんが「政府は沖縄の負担軽減という言葉を繰り返します。そういうのならば、米軍基地建設をストップすることが一番です。力を合わせて『辺野古ノー』を実現する政府をつくりましょう」とあいさつしました。

さらに、市民団体として、北上田毅氏（沖縄平和市民連絡会）、西谷修氏（立教大学特任教授）、柚木康子氏（女性差別撤廃条約実現アクション）、南彰さん氏（MIC議長）がスピーチしました。

最後の行動提起を憲法会議事務局長の高橋が行い、当面の行動を提起し、「全国3000万人署名の早期達成と統一地方選挙、参院選挙での勝利で、安倍9条改憲をストップさせ、安倍政権を退陣に追い込もう」と呼びかけました。

「辺野古移設固執で普天間の危険性放置は許されない」

新基地建設断念を求める県民大会

「土砂投入を許さない！ ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地断念を求める3・16県民大会」が16日午後2時から、那覇市おもろまちの那覇新都心公園で、1万人の参加者で開催されました。主催は、辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議。

辺野古埋め立て反対が投票者の7割を超えた県民投票の結果を尊重し、辺野古新基地建設の断念と米軍普天間飛行場を即時運用停止するよう日米両政府に求める大会決議を採択しました。

昨年12月に辺野古沿岸への土砂投入に踏み切った沖縄防衛局は、今年25日にも新たな埋め立て区域に土砂投入を開始すると沖縄県に通告しており、オール沖縄会議は大会決議を携えて政府要請行動を展開することや、25日に名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前で拡大抗議行動を実施する活動方針を示し、引き続きの結集を呼びかけました。大会では参加者全員で「土砂投入をやめろ」「民意は示された」のメッセージボードを掲げて埋め立て工事の即時停止を訴えました。

出張中の玉城デニー知事のあいさつを代読した謝花喜一郎副知事は「辺野古移設に反対の民意は過去2回の県知事選など一連の選挙でも示されてきたが、辺野古埋め立てに絞った投票で民意が示されたのは初めてで、極めて重要な意義がある。民主主義国家の我が国において直接示された結果は重く、何よ

りも尊重されなければならない」と述べ、県民投票に関わらず埋め立て工事を続行する政府を厳しく批判しました。

さらに「軟弱地盤は深く存在することが判明し、完成しても基地の下では地盤沈下が続く。政府が辺野古移設に固執することによって、普天間の危険性が放置されることは許されるものではない。県民の民意、思いを尊重し、日米両政府が断念するまで揺らぐことなく闘い続ける」と玉城県政の姿勢を示しました。

首相、外務相、防衛相、沖縄担当相、米国大統領、駐日米国大使あての大会決議は「政府は2月24日の県民投票で示された圧倒的な沖縄県民の民意を尊重し、埋め立て工事を中止し辺野古への新基地建設を即時、断念せよ」とし、埋め立て土砂の完全撤去、オスプレイ配備の撤回と米軍普天間飛行場の閉鎖・撤去も求めました。

県民大会に合わせて官邸前でも同時刻に集会が催され、2500人が参加しました。



沖縄でたたかう早坂義郎さんからの報告（フェイスブックより）

辺野古の新基地工事がジュゴンの命を奪う！

昨日、沖縄本島付近に数頭しかいないとされている国の特別天然記念物・ジュゴンの死骸が本部半島の今帰仁漁港に上げられた。先ほど19日正午過ぎ、同漁港に行き現場を確認してきた。ちょうど、今帰仁村教育委員会の担当者や美ら海水族館の職員などが死骸の測定のためくるんであったブルーシートをはがし体形の測定をしているところだった。頭から尾びれまでの長さが289センチ、胴の幅76センチ、胴の高さ64センチだった。胴回りは図っていないがおそらく150センチ以上、体重は300キログラム以上だと思われる。その場にいた漁師の平良正男さん（96歳=写真）に話を聞いた。平良さんは、「以前8年ほど今帰仁漁協の組合長をしていた。戦前から70年以上漁業をしているがジュゴンを見たのはこれが初めてだ。ジュゴンの食糧となる辺野古の藻場が工事でダメになったのでこの西海岸まで餌を探し、命が果てたのだと思う。私は辺野古の新基地工事がジュゴンの命を奪ったとみている」と話していた。



えっ！国民玉木代表 “党まとめた改正案の審議が条件”で応じる!?

憲法改正をめぐり、国民民主党の玉木代表は、党がまとめた政党によるテレビ広告を原則として禁止する国民投票法の改正案が審議されるのであれば、憲法審査会の審議に応じる考えを示しました。

憲法改正をめぐり、15日、衆議院憲法審査会の与野党の筆頭幹事が会談し、与党側は来週にも審査会を開き、与党側などが提出し継続審議となっている国民投票の利便性を高めるための改正案を審議して採決したいと提案しましたが、野党側は新年度予算案の審議が終わるまでは応じられないとしています。

これについて、国民民主党の玉木代表は16日、姫路市で記者団に対し、「わが党はしっかりと憲法議論を進めていきたいという立場だ。落ち着いて議論できる環境を与党としても整えることに全力を挙げていきたい」と述べました。

そのうえで、玉木氏は「わが党は国民投票法の改正案を具体的な法文の形で作り、示している。環境が整えばCM広告規制を含んだわが党の改正案について議論を深めたい」と述べ、自民・公明両党とは別に党が独自にまとめた政党によるテレビ広告を原則として禁止する国民投票法の改正案が審議されるのであれば、憲法審査会の審議に応じる考えを示しました。

とんでもありません。今国会では、自衛隊員の募集にかかわる安倍首相の改憲にかかわるウソ発言のもとでは、憲法審査会ではまともな議論に入れるわけがありません。国民投票法の改正は必要ですが、急ぐ必要はありません。そして、国民は改憲を望んでいません。新年度予算成立以後も今通常国会では開催させないことが大事です。

憲法ポスター 10,000 枚普及！

昨年7月中旬に、全国3000万人署名のとりくみを加速させようと作成した憲法ポスターは、10,000枚を普及しました。普及し始めたころ、岩手・田野畑村からは「一斉に貼り出し、村の雰囲気が変わった」との報告が届きました。送り主の住所が「田野畑村奥地」。「おおっ、すごい所かな」と地図で調べましたが、「この地域で・・・」と感動しました。さっそく至る所でその話をして「皆さんの町でも」と訴えました。千葉の憲法会議の総会でも、その話をしましたら、数日後千葉民医連から「3000万人署名の戸別訪問の際に活用する」と300枚の注文がありました。

その後も、相談し合っの注文かと思いますが、〇〇地域九条の会等から10、20枚と注文が続き、先月には北九州憲法共同センターから1200枚の注文が入り、遂に本日10,037枚に到達しました。

憲法パンフレットは17万7400冊普及し、「3000万人署名の推進力になっている」との声が各地から届きましたが、憲法ポスターも同様に推進力になっているだろうと確信しています。

各地のとりくみ

民医連 待合室で医師呼びかけ 伏見10条クリニック

〔北海道発〕伏見10条クリニックでは、午前の診療が始まる前。待合室で医師が3000万人署名の訴えをしています。

昨年、クリニックの署名目標1000筆を達成。しかし、安倍首相が改憲の意欲を見せるなか、「さらに署名数を増やそう」と議論し、1月初旬から朝の訴えを再開しました。

「医師が訴えると患者さんの受け止めも違います。戦争のむごさや平和への思いを医師たちが自分の言葉で訴え、時には拍手が起こります」と話すのは、事務長の白木紀之さん。診察室で「家族の分も集めたいから、署名用紙がほしい」と話す患者さんも。職員がこまめに声をかけ、署名を集めています。

同クリニックでは、2015年から戦争法や改憲に反対するスタンディングを毎週続けています。昼休みの15分ですが、どんなに雪が激しい日でも休むことなく、近隣の民医連の職員にも向呼びかけ、毎回10～20人の参加者でアピールしています。

【新聞2019年3月18日号より】

和歌山 弁護士ら「憲法の破壊を許さないランチTIMEデモ」

「憲法9条を守る和歌山弁護士の会」は13日、「憲法の破壊を許さないランチTIMEデモ」を和歌山市で行いました。

デモ出発場所の市役所前で、藤井幹雄弁護士は沖縄県民が安倍自公政権による強権的な妨害のなかで、住民投票で辺野古新基地建設反対の意思を7割という圧倒的多数で示したと紹介。これほど明確に示された民意を踏みにじる安倍政権にノーの声を上げようと呼びかけました。

東京・福生市 「基地もオスプレイもいらぬ」横田基地 座り見込み10年

米軍横田基地の撤去、特殊作戦機C V22 オスプレイの配備撤回を求める座り込み行動が17日福生市の同基地前で開かれ、行動が10年を迎えました。

横田基地の撤去を求める西多摩の会が呼びかけ、毎月開催しているもので、120回目となる今回は175人が集まりました。参加者は、横田基地の撤去、オスプレイの配備撤回とともに、沖縄県民のたたかいに連帯し、辺野古新基地建設の中止、普天間基地の無条件・即時返還を求めて声をあげました。

同会の高橋美枝子代表は、横田基地のオスプレイが銃口を市街地に向けたまま飛行するなど危険な実態を告発。「こういう場がなければ一人ひとりが悔しい思いをするだけだった。これからも、オスプレイも基地もなくなるまで座り込みを続けていく」と述べました。

初参加した小平市の劇団員の男性(34)は「こういう活動を毎月続けているのは大切だ。自分も目を向けて行きたい」と話しました。

